

---

## PCSのグローバル事業拡大に向け全世界で一挙に80億円を投資 インドでは新工場建設も含め40億円規模

---

東芝三菱電機産業システム株式会社(以下、TMEIC)(社長:町田 精孝)は、全世界でトップシェアを誇る大容量太陽光発電システム用パワーコンディショナ(以下 PCS)のグローバル事業を加速すべく、傘下の海外子会社に対し、本年3月から9月にかけて80億円規模の資本投入を行います。資本増強を行う対象子会社は、インド、米国、中国、東南アジア、欧州とほぼ全世界に跨ります。

国内でも活況を呈してきた太陽光発電市場は、再生エネルギー利用促進に加え発電所建設コストの低下により世界的にも急成長しています。現在は、北米、中国、インドが三大市場ですが、今後は東南アジア、中南米、中近東・アフリカなど他の地域でも拡大して行くことが期待されます。TMEICは、現状600億円規模(うち海外40%)のPCS事業を2017年度には1000億円規模(うち海外60%)まで拡大し、今後とも業界トップの地位を堅持すべく、先行的に今回の資本投入を行います。海外生産拠点のPCS製造能力としては、現状の年間2GW弱から、2017年には年間7GWまで一挙に拡大します。

資本投入の内訳は、急速な規模増が予想される海外子会社の財務基盤強化・事業拡大対応資金増強のための増資が45億円相当で、既に中国、米国、インドで稼働している海外生産拠点の製造能力増強対応が35億円規模です。

今回投資のうち、特にインドに対しては新工場建設も含めて総投資額の半分にあたる40億円規模(うち新工場建設対応25億円)を投入します。インドでは2014年8月に欧州AEG社より買収したベンガールの工場で既にPCSの現地生産を開始しております。買収後のインド国内での急激な受注増によりフル操業が継続しており、インドでの今後のさらなる事業拡大とインド以外の市場に向けた生産基地としての活用に向け、今回新たに現工場のほぼ3倍の製造能力を有する工場を建設することとしました。

インド新工場は、現工場と同じベンガール地域で、かつ既に稼働を開始した電動機工場の隣接地に建設します。敷地面積27,000㎡、建屋面積10,000㎡で、太陽光発電+ESS(エネルギー貯蔵システム)も設置した次世代の「エネルギー循環型工場」とする構想です。現工場からの異動も含め現地従業員は250名規模の予定で、本年春に着工の上、2017年夏の操業開始を目指します。

インド新工場では、PCSに加え、隣接する工場で生産される電動機と組み合わせられた電動機駆動用インバータ、さらには日本製の販売を開始している無停電電源装置(UPS)の現地生産も計画しています。

### 報道関係からのお問い合わせ先

---

東芝三菱電機産業システム株式会社 事業開発・広報部

〒104-0031 東京都中央区京橋3-1-1 東京スクエアガーデン Tel: 03-3277-4645 Fax: 03-3277-4578

TMEIC(ティーマイク)は、社会を支える基盤である「ものづくり」の現場ニーズにお応えするために、社会の発展と美しい地球環境とを調和させる産業システムインテグレータとして、「産業」「社会」「環境」の未来を常に見据えています。工場・プラントにおいて原動力となっている回転機、電力を変換・制御するパワーエレクトロニクス、そしてプラント全体を計画し実現するエンジニアリング、これらの技術をコアに、ものづくりと環境マネジメントに最先端の技術で貢献していきます。